

「令和5年度魅力ある県立学校づくり大賞」：特別賞

全校生徒80名の挑戦と貢献

～地域ニーズと生徒のアイデアを踏まえた地域貢献～

千葉県立市原特別支援学校つるまい風の丘分校

本校は、市原特別支援学校の分校として平成22年に開校しました。小湊鐵道の上総川間駅近くに位置し、園芸技術科と流通サービス科が設置され、知的障害のある高等部80名の生徒が社会的職業的自立を目標に学んでいます。身に付けた農業や園芸、清掃などの知識や技術を生かし取り組んだ地域貢献活動について、今回ご紹介します。

この活動は、「学びを応用する」「成功体験を積む」「主体的に取り組む態度を育てる」ことを目的に、地域ニーズと生徒のアイデアを踏まえ全校で繰り返し行ってきたものです。

1 全校体制で繰り返し地域貢献活動に「挑戦」

生徒全員が何度も挑戦するようにし、令和4年度は延べ38日、一人平均4.7回活動しました。令和5年度も昨年と同じペースです。主な活動は以下のとおりです。

<主な活動>

少子高齢化で人手の不足する地域の環境整備活動、野菜や花苗の地域販売活動、通学でお世話になっている駅での活動、企業や公共機関での仕事を手伝う活動 など

2 地域ニーズと生徒のアイデアを踏まえた「貢献」

地域の方のインタビューと生徒へのアンケート結果をマッチさせた、以下の3つの地域貢献活動を行い、思わぬ効果が生まれました。

(1) 地域スポーツチーム「VONDS市原」ホームグラウンドやクラブハウスの環境整備

チームの方と共に、グラウンド周辺の除草やクラブハウス内の清掃を繰り返し行っています。広大な敷地の除草作業に生徒の力がとても役立っていると喜ばれました。この活動は、選手によるサッカー教室の実現に繋がりました。



(2) 五井駅での野菜や花苗の販売会

五井駅の「こみなと待合室」とホームで、野菜や花苗の販売会を行いました。これを機に生徒が植えた花苗のプランターをホームに設置することができました。季節ごとの花を、駅を利用する皆様楽しんでいただいています。



(3) 出身中学校にきれいを届け隊

生徒が母校で床洗浄、ワックスがけ等を行いました。母校の生徒に清掃技術を教え、一緒に清掃活動もしました。小中の先生方による分校の見学者が増えました。

これらの取組は新聞や企業のSNSで紹介されました。生徒の92%が「地域貢献活動にやりがいを感じた。また行いたい」と回答しており、「地域貢献は自分の成長につながる」「精一杯勉強し、卒業後も貢献活動をしたい」などの感想も多く、効果を感じています。連携した関係者の方々からは「人手が足りないところなのでありがたい」「特別支援学校の理解につながった」などの声をいただいています。

今後も地域貢献活動に力を入れ生徒の意欲や主体性を育み卒業後の自立を目指すとともに、地域の方に障害のある生徒への理解を深めてもらい協同の輪を広げたいと思います。